



目次

- 一特別掲載一 「新年度に向けての挨拶」…………… 2
- 一職場紹介一 「乳がん検診(マンモグラフィー)を受診していただくために」… 4
- 一新入職員紹介一…………… 6
- 一お知らせ一 「紹介患者様のご依頼方法」…………… 7



特別掲載

新年度に向けての挨拶



鹿児島市医師会病院

院長 田畑 峯 雄

3月11日午後、東北地方太平洋沖にマグニチュード9.0という未曾有の大地震が発生し、想像を絶する津波で一瞬の間に家屋、船、車が飲み込まれる大惨事となりました。鹿児島市医師会病院は厚生労働省のDMAT（災害医療支援チーム）派遣要請に基づき翌12日朝には8人を福岡空港航空自衛隊駐屯地に派遣いたしました。日本医師会は各都道府県医師会にJMAT（日本医師会災害医療チーム）の結成を依頼し、被災地への医療支援チームを派遣することになりました。当院も診療支援を通じて被災地域の方々のお役に立てるようにチームを結成し県の先遣隊に続いて20日早朝、支援先の茨城県へ向けて出発いたしました。

医師臨床研修制度の導入後、県内出身者の少ない地方大学の卒業生は大都市や出身地の大病院での研修を希望し大学医局の入局者が激減

し、地方の医師不足による医療崩壊が注目されるようになってきました。厚生労働省の医学部定員増や各大学の地域枠の導入は10年前後経たないと効果は期待できません。鹿児島大学・県・医師会も医師確保対策に乗り出しましたが、2011年度の県内の研修希望者は増えず医師不足は深刻な問題となっています。医師不足の目立つ診療科は小児科、産科、救急科と言われ、外科医志望減少も目立つようになって来ています。当院でも小児科医不足のため小児救急医療拠点病院の存続は困難となりましたが、会員の先生方からの紹介は今まで通り対応させていただきます。消化器内科の定員減も解消されていませんが、少ないマンパワーでご迷惑をおかけしないように努力して参ります。このような状況下で、市泌尿器科医会と大学医局のご配慮で2010年4月から泌尿器科を増科出来たことに感

謝申し上げます。紹介医の泌尿器科の先生方と当院医師との共同手術が増加傾向にありますが、他科の先生方からのご紹介もよろしくお願ひ申し上げます。

2010年度の診療報酬改定の救急医療管理加算、急性期看護補助体制加算、手術点数の増点などで当院も若干の恩恵に与り、何とか赤字基調から脱却できました。おかげでIVR・CTとICU周術期患者集中管理システム機種種の更新が可能となりました。今回の64列MD-CT装置の導入により、高画質の冠動脈CTが可能となりました。この新しい装置は従来の16列MD-CT同様に通常の診断にも活用でき、予約待ちも短縮できるようになりましたのでぜひご利用お願いいたします。

医療制度改革によって、地域医療は機能分化と連携体制を構築し、患者中心の安全・安心な質の高い医療を切れ目無く提供していく方向に向かっています。当院は1984年開院当初からかかりつけ医である会員との密接な連携のもと、地域中核病院として急性期疾患を中心とした医療を担ってきました。今回の診療報酬改定でも病病診連携が評価され、ますます連携が大切になると考えられます。

当院の医療連携・相談室の主な連携業務は紹介元医療施設からの事前診療録作成書受付・紹介患者依頼連絡調整、紹介元医療施設への入院

連絡書・退院連絡書・退院総括・入院後病状・手術経過連絡書のFAX送付などで連携機能の向上に努めています。将来的にはデータのデジタル化により、正確な診療情報を共有できるような施設間のネットワーク化できるようになることを期待したいと思います。当院の各診療科の医師・看護師・医療連携室職員が会員施設を訪問しご要望を伺い忌憚のない意見交換を行い、癌・脳卒中・心筋梗塞などの連携パスの作成にも取り組んでいきたいと考えています。

会員の先生方とさらに密接でスムーズな連携を職員一同目指して参りますので、今後ご指導・ご支援よろしくお願ひ申し上げます。

職場紹介

『乳がん検診(マンモグラフィ)を受診していただくために』

鹿児島市医師会病院 診療放射線室
マンモグラフィ認定技師 渡邊 美穂

乳がん検診ではマンモグラフィ検査（以下MMG）をはじめ乳腺エコーや医師による触診、視診などが施行されますが、今回はMMGについてご紹介いたします。

≪乳がん検診の統計と現状≫

当院では、年間約800件（過去5年間の平均データ）のMMGを施行していて、そのほとんどが人間ドック（乳がん検診を含めて）の受診者です。

鹿児島県全体では右図上段のように1年間に約4万人の女性が乳がん検査を受診していますが、乳がん検診の対象者は約30万人で受診率はわずか22%に過ぎません。

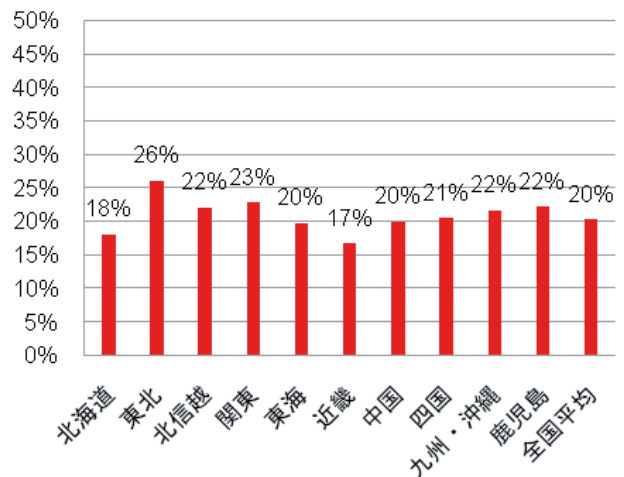
また、最も受診率の高い都道府県でも約30%、全国平均では約20%と5人の女性のうち、たった1人しか乳がん検査を受診していないのが現状です。

一方、女性のがんの中で罹患率が最も高いのは乳がんです。乳がんの患者数は右図中段のように増え続けており、現在16人に1人の割合で女性が乳がんを発症、その内約30%の方が命を落とすと言われています。

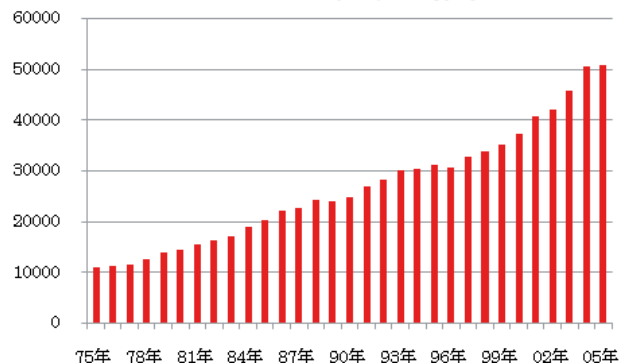
（国立がん研究センターのデータより）

年代別にみた乳がんの患者数は、右図下段のようになっています。一般的に乳癌の発症率は50歳前後でピークを迎え、閉経後に低下することが知られています。しかし図からも解るように、年々乳がんの発症数が高まってきており、そのピークは高齢化傾向で推移し、若年層の発症数も年々増加しています。

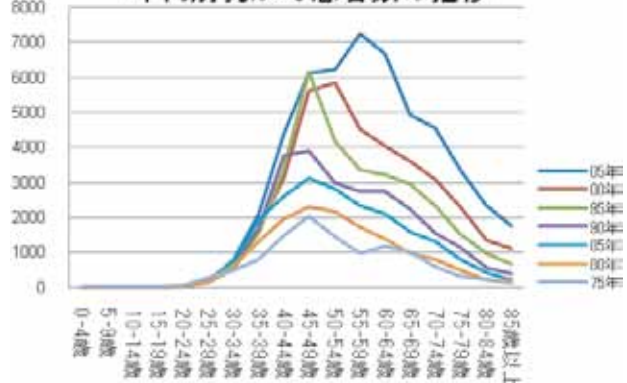
乳がん検診受診率（40歳以上）



乳がん患者数の推移



年代別乳がん患者数の推移



出典：国立がん研究センターがん対策情報センター

《乳がんと向き合うその後の人生》

乳がんを患った方の中には、乳がん検診を受診しなかったことを悔やむ方が少なくありません。

死亡率はその他の癌に比べると高くはありませんが、発見された状況によってはその方の人生を大きく左右する出来事となってしまいます。現在、MMGの検診では、画像を高い水準に保つための精度管理のもとで検査を行っており0.5mm以下の微小石灰化も検出することが可能です。

《当院 MMG 撮影装置のご紹介》

GE社製乳房撮影装置『セノグラフ DMR』（平成7年より）

モリブデン(Mo)とロジウム(Rh)を陽極素材に用いた二重陽極・四重点を有するX線マンモグラフィ装置。Rh陽極はMoより高い特性X線を発生させることが可能で、X線本来の透過力も向上するため、大きい乳房に対しても十分な画像コントラストが得られます。また、軟部組織の微妙な濃度差を画像化することにより、乳がんに伴って発生する微小石灰化の検出が可能で乳癌の早期発見・早期治療に役立っています。



《私が MMG を撮影する時に気を付けていることは…》

私が MMG 撮影前に受診者にかかる最初の言葉は『〇〇さん、この検査を受けられたことがありますか?』です。その理由は、返ってきた答えから受診者の検査経験の有無が分かるだけでなく、その時の声色や表情などから緊張の度合いを知ることができるからです。

MMGは他の検査以上に受診者の緊張の度合いがそのまま画像に反映されてしまいます。緊張のため肩に力が入っていたり、背中を丸めていたりすると、乳房全体をバランスよく圧迫できないだけでなく、受診者に必要以上の苦痛を与えてしまいます。最適な画像を撮影するためには、いかにリラックスした精神状態で検査を受けていただけるかが大切だと私は考えています。



リラックスした笑顔でマンモグラフィ検査を受けていただけるように、これからも受診される皆さまに対する気配りを心がけていきたいと思えます。

新入職員（新任医師）紹介



循環器内科医長

<プロフィール>

(H23. 1. 1～)

名前 くわはし ぞう 桑波田 聡
出身県 鹿児島県
出身大学 福岡大学
前勤務先 鹿児島大学病院
趣味 温泉巡り

1月から循環器内科に勤務しています。医師会病院には平成13～14年に勤務したことがあり、今回9年ぶりに帰って参りました。どうぞ宜しくお願いします。



神経内科医師

<プロフィール>

(H23. 4. 1～)

名前 たかぐち こう 高口 剛
出身県 鹿児島県
出身大学 鹿児島大学
前勤務先 鹿児島大学病院
趣味 スポーツ観戦

平成23年4月より当院神経内科で勤務させて頂くことになりました。前年は大学病院での勤務で、あまり急性期の疾患を診療する機会はありませんでした。そのため、多々御迷惑をかけてしまう事になるかもしれませんが、少しでも早く慣れるよう精進致しますので、どうぞよろしくお願い致します。



外科医師

<プロフィール>

(H23. 4. 1～)

名前 かわむら しょうしゅ 川村 秀尚
出身県 鹿児島県
出身大学 鹿児島大学
前勤務先 鹿児島大学病院
趣味

よろしくお祈いします。



麻酔科医師

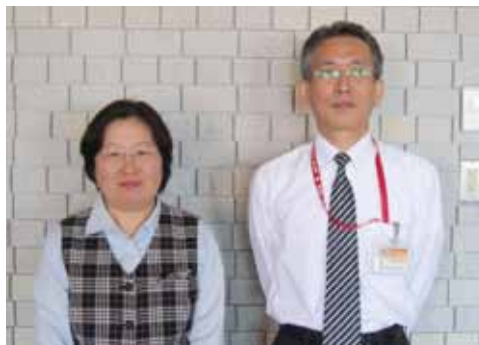
<プロフィール>

(H23. 4. 1～)

名前 うちの えりか 内野 えりか
出身県 鹿児島県
出身大学 鹿児島大学
前勤務先 鹿児島大学病院
趣味

平成20年に鹿児島大学麻酔科に入局し、市立病院、鹿児島大学病院での勤務を経て、4月から医師会病院で働かせていただくこととなりました。ICUは初めてで、不慣れなことも多く、御迷惑をおかけすることもあると思いますが、一生懸命頑張っていきたいと思ひます。ご指導、よろしくお祈い致します。

人事異動



かねてより、皆様には鹿児島市医師会病院医療連携・相談室には多大なるご支援・ご協力を頂きまして誠にありがとうございます。

私どもは本年4月1日より配属となりました。今後も、さらに会員医療施設の皆様との連携を図ってまいりたいと思っております。前任者同様宜しくお願い申し上げます。

室長 下登孝子 課長補佐 前田洋志

【紹介患者様のご依頼方法】

当院は紹介型病院です。鹿児島市医師会会員・会員外に関わらず患者様のご紹介をお待ちしております。

鹿児島市医師会病院外来診療時間

受付時間	8時30分～11時（特殊外来を除く）
診療時間	8時30分～17時（土曜日は8時30分～12時）
電話代表	099-254-1125

外来診療依頼方法

1. 診療科目および診療日は、外来診療週間スケジュール、週間診療案内をご参照ください。
2. 緊急の場合は、当日の各診療科緊急担当医がおりますので『緊急の患者紹介』と交換手にお申し付けください。
3. 患者紹介状（診療情報提供者）を保険証と併せて患者様に持たせ、当該科診療日の受付時間内に受診させてください。
予約診療ではありませんので、緊急の場合を除き、原則として来院受付順となっております。その旨患者様にもご説明ください。
4. 診察の結果、外来検査、入院の必要がある場合は、紹介医にご相談いたします。
5. 特殊外来診療については、全て予約制になっておりますので、事前に総合外来受付（内線223・227）へお電話でご予約ください。

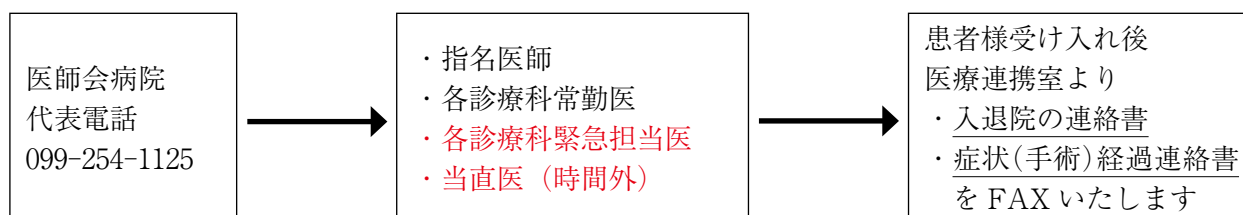
検査依頼方法

1. 検査は予約制となっております。電話（254-1125）にて「〇〇の検査予約」とお伝えください。該当予約受付へお繋ぎいたします。

入院依頼方法

1. 入院の紹介患者様は、診療時間内は各診療科常勤医へ連絡していただき、病状を検討のうえ入院日時を決定させていただきました。
緊急の場合は、当日の各診療科緊急担当医がおりますので『緊急の入院』と電話口でお話しく下さい。
診療時間外は当直医（内科系・外科系・麻酔科各1人）が対応いたします。
小児科は現時点では、火・木・土は当直に準じる体制をとっております。
2. 患者紹介状（診療情報提供書）を保険証と併せて患者様に持たせ受診させてください。
3. 患者様の病状が軽減または、治療方針が確定いたしましたら、紹介医にご相談いたします。

<紹介患者様入院受け入れの流れ>



【基本理念】

患者様の意思と権利を尊重し、会員や地域の医療ニーズに応え、安全で質の高い誠実な医療を提供します。

【基本方針】

- 1) 医療を通じて地域社会への貢献
- 2) 救急医療の推進
- 3) 専門性を追求した高度医療の実践と連携の強化
- 4) 予防医学と医療人教育

鹿児島市医師会病院 連携室だより No.18

創刊日：平成17年8月10日

発行日：平成23年4月10日（年3回 4・8・12月発行）

発行者：〒890-0064 鹿児島市鴨池新町7番1号

鹿児島市医師会病院 院長 田畑 肇雄

担当：医療連携・相談室

TEL：099-254-1125（代表）

TEL：099-254-1121（医療連携・相談室）

FAX：099-254-1308（医療連携・相談室）

ホームページ：<http://city.kagoshima.med.or.jp/kasiihp>

ご意見などございましたら、お気軽にご連絡ください。